

一 祭 神

高 靈 神

一 祭 日

御例祭ハ六月一日ニシテ神饌幣帛供進使ノ參
向アリ私祭ハ同日午後ニ行ハレ神興渡御アリ

一 神 德

御祭神ノ御威徳ハ既ニ國史ニ明記アル如ク水
徳ノ神ニマシマス也古書ニ 高靈神ハ龍ニテ
雨ヲ物スル神也云々又 高靈神ハ 閻靈神ト
同ジク龍神ニシテ貴布禰明神是也今雨ヲ祈リ
雨ヲ止ム此神ヲ祭ル云々又貴布禰ハ貴船トモ
書ケリ山城國愛宕郡ニ在ル龍神ナレバ晴ヲ祈
ルニモ雨ヲ乞フニモ此社ヲ祭ル云々トアリ太
古ノ事ハ悉シク知ルコトヲ得ズ人皇五十二代
嵯峨天皇弘仁九年七月炎旱甚シク五穀色ヲ
變ズ 朝廷使ヲ遣ハシ幣帛黒馬ヲ獻ジテ祈雨
ノ御儀アリ同十年六月霖雨久シキニ涉ル 朝
廷使ヲ遣ハシ幣帛白馬ヲ獻ジテ祈晴ノ御儀ア
リ何レモ神驗靈應忽チニシテ顯ハル後世祈雨
ニ黒馬、祈晴ニ白馬ヲ獻ジテ祈願スルノ儀是ニ
始マル夫レヨリ以降歴代ノ 朝廷ニ於テ屢々
官幣ヲ奉ラレ又炎旱、霖雨凶作等ノ時ニハ必ズ
御祈リノ儀ヲ行ハセラレタリ、カク上 朝廷ノ
御崇敬コトニ厚カリケレバ下萬民ノ尊崇歸依
スルコトノ深キ素ヨリ其所也今ノ世猶ホ諸國
ニ於テ貴船明神ヲ祀レルハ皆此神ノ分靈ヲ請
ケタルモノ也特ニ江州若狹越前諸國ノ舟乘業
者ハ古來年毎ニ必ズ參拜シテ海上安全ヲ祈願
シ神符神札ヲ受クルモノ多ク當社年中行事ノ
一ニ數ヘラレタリ又京都市内ノ家々ニ於テハ
井戸堀井戸替ヲ爲ストキ先ヅ此社ニ祈願スル
ヲ例トス又輓近外國交通ノ頻繁ナルニ從ヒ渡
航者ノ來リ詣デ海上安全ヲ祈願スルモノ年々
其數ヲ増スニ至レリ

一 創 建

御鎮座ノ年度及ビ原由ハ今之レヲ詳ニスルヲ
得ザルモ遠ク神代ノ時ニ祀ラレタルコトハ御
祭神ノ御由緒ニ據リ察シ奉ル、社記ニ依レバ人
皇四十代 天武天皇白鳳六年社殿御造替ヨリ
文久三年ニ至ルマデ正遷宮三十六ケ度ニシテ
盡ク 朝廷ヨリ御造營在ラセラレタリ(白鳳六
年ハ今大正元年ヲ距ルコト一千二百三十六年
ナリ)

一 社 格

名神大、月次、新嘗ノ神社ニシテ又 朝廷特別奉
幣二十二社ノ内ナリ人皇五十二代 嵯峨天皇
弘仁九年五月大社ニ列セラレシガ寛文四年ヨ
リ賀茂別雷神神社ノ所攝トナリ社格降下セシモ
明治四年五月十四日古ノ獨立一本社ニ復セラ
レ官幣中社ニ列格セラル同七年四月菊御紋ヲ
許ルサレタリ

一 神 階

人皇五十二代 嵯峨天皇弘仁九年六月從五位
ヲ授ケラレ以後十三階ヲ進メテ人皇七十五代
崇徳天皇保延六年七月十日正一位ニ叙セラ
ル

一 建 物

神殿ハ南面シテ境内北方ニ位置ス桁行一丈二
尺九寸梁行一丈〇七寸五分檜白木ノ檜首造、拜
殿ハ桁行二丈〇一寸梁行二丈〇四寸五分檜白
木ノ明神造ニシテ共ニ寛永五年ノ御造替ナリ
又現在ノ神饌所ハ桁行二丈二尺九寸五分梁行
一丈六尺四寸二分檜白木ノ入母屋造ニシテ明
治四十五年六月ノ改築ニ係リ結構壯麗ナリ
奥宮(本社ノ北六丁)神殿ハ南面シテ奥宮ノ境内
北方ニ位置ス桁行八尺三寸梁行七尺二寸五分
檜白木ノ檜首造ニシテ文久三年ノ御造替、拜殿
ハ桁行一丈三尺六寸五分梁行一丈三尺五寸五
分檜白木ノ明神造ニシテ寛永五年ノ御造替ナ
リ

一 境 域

現今ハ四万五千五百坪ナリ往昔ハ詳カナラザ
ルモ明治初年マデハ東ハ貴船川ヲ以テ界シ西
ハ二ノ瀬山ヲ限リ南ハ鞍馬村字二ノ瀬ヨリ北
ハ芹生峠ヲ以テ丹波國ニ界シ廣袤一百五十町
餘ニ及ビタリシモ明治五年今ノ反別ニ縮少セ
ラレ自餘ノ大部分ハ總テ上地ヲ命ゼラレタリ
境内ノ大部分ハ山林ニシテ無數ノ老杉古梢亭
々トシテ高ク雲霄ニ摩シ壯觀人目ヲ驚カス

一 寶物及ビ古文書什器

社藏ノ寶物等ハ傳説ニ珍器奇書夥多ナリシモ
幾百ノ星霜ヲ經ルニ從ヒ散佚シテ盡ク見ルベ
キモノナク今僅カニ存スルハ三十六歌仙ノ繪
畫ハ探幽ノ筆ニシテ歌ハ二品筆澤法親王ノ御
筆、備前長船住祐定ノ作ニ係ル短刀一口、武者小
路實隱公御筆象畫讀原舟山ノ作人形福祿壽一
個等ナリ

一 攝 末 社

本社境内末社
白鬚社、川尾社、牛一社、鈴鹿社
境外末社
結社、白石社、梅宮社、梶取社
奥宮境内末社
吸葛社、日吉社、鈴市社、私市社、林田社

一 名 所 古 跡

雨乞瀧、鼓ヶ瀧、龍王瀧、不動瀧、龍ヶ淵並ニ鏡石、螢
岩、裝束岩、足洗岩等ニシテ皆本社ノ近傍ニアリ

一 本 社 ノ 位 置

京都ノ北四里貴船山(直立ニテ)ノ中腹ニ在リ潺湲
タル一帯ノ貴船川ハ其麓ヲ環流シ翳蔚トシテ
天空ニ摩スル鞍馬山ハ前面ニ對立シ閑雅幽邃
ノ別天地ヲ作ス延喜神祇式ニ云フ此地之勝甲
于天下云々左レバ古ヘヨリ月卿雲客サテハ武
將歌人等ノ來リ詣ウヅル者多ク從ツテ名アル
和歌亦多キモ夫木集、千載集、新千載集、續千載集、
新古今和歌集、後拾遺和歌集、新續古今和歌集、萬
代集、玉葉集等ニ載セラレタレバ茲ニハ略ス

大正元年十一月

貴 船 神 社 々 務 所

